

## 音曲技法書（伝書）の総合的研究

研究代表者：藤田隆則      プロジェクト研究

共同研究員：朝原広基（伝音センター共同研究員）、安納真理子（東京工業大学）、上野正章（本学客員研究員）、恵阪悟（帝塚山大学）、大谷節子（成城大学）、大山範子（神戸女子大学）、沖本幸子（東京大学）、鎌田紗弓（東京文化財研究所）、近藤静乃（東京藝術大学）、柴佳世乃（千葉大学）、柴田真希（共同研究員）、藺田郁（京都市立芸術大学）、高桑いづみ（伝音センター共同研究員）、高橋葉子（本学客員研究員）、田草川みずき（千葉大学）、玉村恭（上越教育大学）、中尾薫（大阪大学）、中嶋謙昌（灘高校）、永原順子（大阪大学）、長田あかね（神戸女子大学）、丹羽幸江（本学客員研究員）、坂東愛子（伝音センター共同研究員）、PELLECCHIA Diego（京都産業大学）、森田都紀（京都芸術大学）、横山太郎（立教大学）、吉岡倫裕（伝音センター共同研究員）

### 開催趣旨：

音曲の技術書（伝書）の多くは、音の長さや高さの規則に言及するより前に、発音、発声法、呼吸法、装飾法、宇宙観など、いわゆる「音楽以外」の要素におおく言及する。したがって、言語学、文学、宗教学、音楽学、歴史学などの知を結集させなければ、音曲の技術書をまるごと理解することはできない。本研究会は、仏教や神道などの宗教儀礼、能や平家などの中世芸能、義太夫節などの近世芸能における音曲技術書（伝書）研究を、主な研究対象とする。それぞれの種目を専門に研究してきた研究者が、種目をこえて集い、専門とする技法などを紹介しあうことによって、種目間の類似性と差異を了解しあうことが目的となる。たとえば、ユリやフリは、多くの種目で共通して用いられる技法名であるが、それが指す内容は異なる。その情報共有をおこなう。研究会を、ふたつの部会にわけて開催する。ひとつの部会では、能の謡の音

曲伝書をとりあげて、ていねいに現代語訳する作業をおこなう。対象となる技術書は『謡鏡』である。もうひとつの部会では、羽衣の映像のウェブ公開を目的としつつ、ウェブサイトにおける能楽の楽譜の提示方法について検討する。

### 2021 年度の研究会

時間：13 時—17 時（特に記載がない限り、オンライン開催）

音曲技法書輪読部会：5 月 7 日、6 月 4 日、6 月 26 日、7 月 2 日、8 月 6 日、9 月 3 日、9 月 21 日、10 月 1 日、10 月 19 日、11 月 12 日、12 月 3 日、1 月 7 日、2 月 4 日、2 月 27 日～3 月 1 日（高知城歴史博物館での調査）、3 月 18 日

羽衣のウェブ公開検討部会：6 月 20 日、8 月 24 日、8 月 25 日、9 月 18 日

## 儒教と文人の世界観に展開する「楽」思想の諸相研究

研究代表者：武内恵美子      プロジェクト研究

共同研究員：明木茂夫（中京大学 教授）、遠藤徹（東京学芸大学、教授）、小林龍彦（前橋工科大学 名誉教授）、小島康敬（国際基督教大学 教授）、高橋博巳（金城学院大学 名誉教授）、平木實（天理大学 元教授）、南谷美保（四天王寺大学、教授）、山寺美紀子（國學院大學北海道短期大学部、兼任講師）、渡辺信一郎（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター 所長）、趙維平（上海音楽学院 教授）、唐権（華東師範大学外国語学院、助教授）、平間充子（京都市立芸術大学 客員研究員）

### 開催趣旨：

本研究は、平成 25 年度から 4 年間かけて行ってき

た共同研究「近世日本における儒学の楽思想に関する思想史・文化史・音楽学的アプローチ」の成果を踏まえ、更に展開させるものである。

儒教は古代中国に端を発し、東アジア全体に波及し多大な影響を及ぼした思想、宗教である。その中心的役割の一軸として「楽」思想があるが、楽思想は単に音楽の思想にとどまらず、政治、文学、歴史、数学、天文学と関連し、また儒学を超えた、文人世界の形成にも大きく影響を及ぼした。

日本にもその影響は及び、古代から近世にかけて、研究・普及がなされてきた。また、江戸時代には、文人的概念が定着し、日本に於いても独自の世界観が成立、展開した。これら楽思想を通して展開した文化に共通する、普遍的な世界観を、様々な角度から見出し、東アジア世界との対比も含めた文化の諸相を多角的に見出すことを目的とする。

この種の研究は近年ようやく行われるようになってきたが、分野を超えた交流はなかなか実現できない。共同研究の形態で、思想史、文化史、音楽学、歴史学、数学史など、学際的に1つの話題を議論する場を提供し、それぞれの分野の認識を深めつつ、ジャンルを超えた文化の概念を探ることが本研究の意義であり特徴である。

## 2021年度の研究会

- 2021年5月17日 部会 譜本の検討4
- 2021年6月21日 部会 譜本の検討5
- 2021年7月25日 部会 譜本の検討6
- 2021年8月22日 部会 譜本の検討7
- 2021年9月30日 部会 譜本の検討8
- 2021年11月29日 部会 譜本の検討9
- 2022年1月25日 部会 譜本の検討10
- 2022年2月7日 部会 譜本の検討11
- 2022年3月12日 プロジェクト研究会 明木茂夫「橘春輝の古律関連写本『古律図説』『律呂抄』について」
- 2022年3月15日 部会 譜本の検討12

## 下京・大学から発信する日本音楽研究

研究代表者：竹内 有一

共同研究

共同研究員：青木由貴（邦楽演奏家）、大西秀紀（本学客員研究員）、岡田万里子（桜美林大学教授）、神津武男（早稲田大学演劇博物館招聘研究員、本学客員研究員）、小西志保（邦楽演奏家、竹内研究室研究嘱託員）、志川真子（総合研究大学院大学博士後期課程）、吹田哲二郎（千本六斎会会長、本学美術学部非常勤講師）、竹口等（京都文教大学名誉教授、崇仁教育連絡会顧問）、常岡亮（邦楽演奏家、常磐津協会理事）、福持昌之（京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課主任・文化財保護技師）、細野桜子（邦楽演奏家、新内協会正会員）、村井陽平（福井工業大学准教授）

### 趣旨

京都・下京および本学の環境から見いだすことのできる日本音楽研究のいくつかの課題について、課題ごとにチームを組み、実践的・実務的な作業を軸に、基礎研究とアーカイブ化を進めた。成果の一部を公開講座開催によって発表した。

#### (1) 崇仁祭囃子の歴史と伝承

2019～2020年度の本学特別研究助成による作業の統括、および崇仁地域と大学の交流を着実に発展させることを目的とし、いくつかの作業を軸に研究を進めた。古文書の精査や六斎念仏との比較調査により、崇仁祭囃子が柳原六斎念仏に由来すること、伝承曲「だんじり」が六斎念仏演目「祇園囃子」と同じ曲であることなどを突き止め、2022年2月11日の日本伝統音楽研究センター主催第59回公開講座でその成果を報告した。

#### (2) 日本伝統音楽に関する江戸期史料の基礎的研究

日本伝統音楽に関する文献資料（謡本・浄瑠璃本・うた本、理論書・歴史書など）について、書誌的な側面に着目しながら、所蔵調査、読み合わせ、参考文献の調査など、総合的な研究を進めた。

#### (3) 常磐津節の伝承資料『老の戯言』の読み合わせ

(2)の発展的研究のひとつとして、常磐津節三味線

方が元治2年(1865)に出版した伝承資料に記載された節付け・手付けを解説し、注釈作成の準備を進めた。

(4) 明治初期の都をどり詞章刷物の読み合わせ

(2) の発展的研究のひとつとして、都をどりの最初期の史料である詞章刷物の読み合わせを進めた。

(5) 常磐津節の昭和期音源資料の調査

コロナ禍により、オープンリールデッキ等を使用して、音源資料を良好な状態かつ簡易な方法で共有し視聴するための作業を進めることが困難な状況であったため、調査の実施を見送り、代わりに上記2つの課題を新たに設けて取り組んだ。

(1) 崇仁祭り囃子の歴史と伝承

2021年5月16日(日)17時-19時、竹口氏自宅(下京区)(特別研究)

公開講座企画案の検討と研究課題(竹内・竹口、オブザーバー:楳村・片岡)

2021年6月4日(金)14時-16時、805研究室(特別研究)

崇仁祭り囃子の伝承にまつわる聞き取り調査、六斎念仏との比較調査(小西・竹内、ゲスト:片岡実)

2021年7月18日(日)10時-13時、下京青少年活動センター会議室(第10回)

古文書にみる柳原六斎念仏、「だんじり」をめぐって(小西・竹内・竹口・福持、オブザーバー:楳村・片岡)

2021年8月29日(日)10時-13時、オンライン(第15回)

京都の六斎念仏1(小西・志川・竹内・竹口・福持、オブザーバー:楳村・片岡)

2021年9月20日(月)10時-13時、オンライン(第21回)

京都の六斎念仏2(小西・志川・竹内・竹口・福持、オブザーバー:楳村・片岡)

2021年9月26日(日)11時-12時30分、紫野スタジオ(特別研究)

千本六斎会聞き取り調査(小西・吹田)

2021年9月26日(日)13時30分-15時30分、京都市北文化会館(特別研究)

小山郷六斎念仏保存会聞き取り調査(小西)

2021年10月17日(日)10時-13時、オンライン(第24回)

六斎念仏「祇園囃子」と崇仁だんじり囃子の比較調査(青木・小西・志川・吹田・竹内・竹口・福持、オブザーバー:楳村・片岡・藤尾)

2021年11月28日(日)11時-13時、下京青少年活動センター会議室(第30回)

公開講座構成案の検討(青木・小西・吹田・竹内・竹口・福持、オブザーバー:楳村・片岡・藤尾)

2022年1月16日(日)13時-17時、合同研究室2(第35回)

公開講座打合せ(小西・志川・吹田・竹内・竹口・福持、オブザーバー:楳村・片岡・藤尾)

(2) 日本伝統音楽に関する江戸期史料の基礎的研究

2021年5月27日(木)10時-17時、805研究室・601研究室(第1回)

西村公一文庫における義太夫節正本の考察1(神津・竹内、オブザーバー:大学院生)

2021年5月31日(月)13時-16時、オンライン(第2回)

新内節正本「浮名初紋日」の読み合わせ1(小西・竹内・常岡・細野)

2021年6月3日(木)10時-17時、805研究室・601研究室(第3回)

西村公一文庫における義太夫節正本の考察2(神津・竹内、オブザーバー:大学院生)

2021年6月21日(月)13時-16時、オンライン(第5回)

新内節正本「浮名初紋日」の読み合わせ2(小西・竹内・常岡・細野)

2021年7月12日(月)13時-16時、オンライン(第7回)

同上3(神津・小西・竹内・常岡・細野)

2021年7月16日(金)13時-16時、805研究室・601研究室(第8回)

西村公一文庫の共同調査(神津・小西・竹内・細野)

2021年9月10日(金)13時-16時、オンライン(第17回)

下半期の研究計画 1 (神津・小西・竹内・細野)  
 2021年9月14日(火) 13時-16時、805研究室(第19回)  
 同上2(神津・小西・竹内)  
 2022年1月11日(火) 13時-17時、805研究室(第33回)  
 書誌学に関する文献紹介1(神津・小西・竹内)  
 2022年1月13日(木) 10時30分-17時、805研究室(第34回)  
 同上2(神津・小西・竹内)  
 2022年2月2日(水) 13時-16時、805研究室・601研究室(第36回)  
 近年伝音センターに収蔵された浄瑠璃関係史料の調査1(神津・小西・竹内・細野)  
 2022年2月3日(木) 16時30分-19時30分、805研究室(第37回)  
 同上2(竹内・細野)  
 2022年3月15日(火) 13時-16時、805研究室・601研究室(第38回)  
 同上3(神津・小西・竹内)  
 2022年3月18日(金) 14時-17時、805研究室(第39回)  
 日本伝統音楽に関する詞章資料の書誌的調査1(小西・竹内・細野)  
 2022年3月22日(火) 14時-17時、805研究室(第40回)  
 同上2(小西・竹内・細野)  
 2022年3月25日(金) 14時-17時、805研究室(第41回)  
 同上3(小西・竹内・細野)

(3) 常磐津節の伝承資料『老の戯言』の読み合わせ  
 2021年6月16日(月) 13時-16時、オンライン(第4回)  
 「当節の部」(小西・竹内・常岡・細野)  
 2021年7月5日(月) 13時-16時、オンライン(第6回)  
 「止りの部」(小西・竹内・常岡・細野)  
 2021年7月26日(月) 13時-16時、オンライン(第10回)

「三重の部」(小西・竹内・常岡・細野)  
 2021年8月13日(金) 13時-16時、オンライン(第12回)  
 「前弾の部」(小西・竹内・常岡・細野)  
 2021年8月23日(月) 13時-16時、オンライン(第13回)  
 「置浄瑠璃繰の部」(小西・竹内・常岡・細野)  
 2021年9月3日(金) 13時-16時、オンライン(第16回)  
 「落節の部」(小西・竹内・常岡・細野、ゲスト:原)  
 2021年9月17日(金) 13時-16時、オンライン(第20回)  
 「凡例」1(小西・竹内・常岡・細野、ゲスト:原)  
 2021年10月1日(金) 15時-18時、オンライン(第22回)  
 「凡例」2(小西・竹内・常岡・細野、ゲスト:原)  
 2021年10月22日(金) 13時-16時、オンライン(第25回)  
 「凡例」3(小西・竹内・常岡・細野、ゲスト:原)  
 2021年11月5日(金) 13時-16時、オンライン(第27回)  
 「時代世話混雑」1(小西・竹内・常岡・細野、ゲスト:原)  
 2021年11月26日(金) 15時-18時、オンライン(第29回)  
 「時代世話混雑」2(小西・竹内・常岡・細野、ゲスト:原)  
 2021年12月17日(金) 10時-11時30分、オンライン(第32回)  
 「時代世話混雑」3(小西・竹内・常岡・細野、ゲスト:原)

(4) 明治初期の都をどり詞章刷物の読み合わせ  
 2021年8月2日(月) 13時-16時、オンライン(第11回)  
 その1(神津・小西・竹内・常岡・細野、オブザーバー:寛生)  
 2021年8月27日(金) 13時-16時、オンライン(第14回)  
 その2(竹内・常岡、オブザーバー:寛生)

2021年9月13日(月)13時-16時、オンライン(第18回)

その3(岡田・小西・竹内・常岡・細野、オブザーバー:寶生)

2021年10月4日(月)10時-13時、オンライン(第23回)

その4(岡田・小西・竹内・常岡・細野、オブザーバー:寶生)

2021年10月25日(月)10時-13時、オンライン(第26回)

その5(大西・岡田・神津・小西・竹内・常岡・細野、オブザーバー:寶生)

2021年11月15日(月)10時-13時、オンライン(第28回)

その6(岡田・神津・小西・竹内・常岡・細野、オブザーバー:寶生)

2021年12月13日(月)10時-13時、オンライン(第31回)

その7(大西・神津・小西・竹内・常岡・細野、オブザーバー:寶生)

## 様式分化をとげた雅楽を対象とする 伝承実態調査

研究代表者:田鍬 智志 共同研究

■ 研究期間:2021年度~2023年度予定

共同研究員(おもな担当/所属):上野 正章(基礎調査・データベース等作成/京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター客員研究員)、志川 真子(基礎調査・現地調査撮影/総合研究大学院大学文化科学研究科比較文化学専攻博士後期課程)、Andrea GIOLAI(報告書編集・データベース等作成/ライデン大学人文学部日本学科助教)、田鍬 智志(現地調査撮影)、出口 実紀(現地調査撮影/大阪芸術大学芸術学部音楽学科非常勤講師)、前島 美保(現地調査撮影/東京藝術大学音楽学部非常勤講師)、増田 真結(採譜/京都教育大学教育学部准教授)、松尾 象空(オブザーバー/青葉山松尾寺住職)

■ 趣旨:全国各地で伝習されている雅楽のなかには、

宮内庁楽部・南都楽所・四天王寺楽所雅亮会などの「標準的雅楽」の旋律・リズムとは著しく様式の異なる雅楽が伝承・伝習されている。舞鶴・松尾寺佛舞の付随雅楽は、知られている稀有な例であるが、そのような雅楽は往々にして、標準的雅楽との相違が認知されていないために、民俗芸能調査などで記録対象とされることが皆無に等しく、分布・伝習の実態が全く知られていない。そのような様式分化した雅楽は、音楽伝承における様式分化のメカニズムを考えるうえでも、また、「標準的雅楽」の過去の音楽様式をさぐるうえでも、貴重な伝承である。しかし、そのような様式分化の著しい雅楽は、後継者の人材不足による消滅の恐れもさることながら、往々にして、スタンダードな雅楽家の介入や、SNSなどの情報源の普及によって、その音楽が「標準化」してしまうことも危惧される。よって、本調査研究では、そのような様式分化の著しい雅楽の伝承の実態を調査し、その音楽を詳細に記録する。本調査研究でとりあげる雅楽は以下のような原則として、以下の要素を満たすものを指す。

- 1) 伝承曲に古典雅楽の曲名を冠するもの。(※したがって吉備楽などは原則として調査対象外とする)
- 2) 編成に横笛だけでなく箏(くわえて笙)がふくまれるもの。(※したがって北陸・東北・東海地方などに伝承される舞楽系芸能(稚児舞など)の付随音楽などは原則として調査対象外とする)
- 3) 標準雅楽の旋律、奏法、リズムとは著しくことなるもの。

■ 2021年度調査活動方針

調査初年度は、まず基礎調査として、各都道府県編集民俗芸能調査報告書から本研究に該当する祭・法会・行事の情報をピックアップする作業を図書館ないし自宅で行った。

■ 調査活動記録

総会:7月14日・1月15日(調査方針の決定等)。  
上野:香川、北海道、青森、岩手、福島、山形、福岡、佐賀、大分、宮崎、山口の民俗芸能調査報告書の調査。調査日、9月16,30日・1月6,8,10,17,18,24,25,31日・2月1,7,8,14,15,21,22日・3月7,8,14,15,17,20,23,24,25日。

志川：静岡、愛知、新潟、石川、福井、長野、岐阜の  
民俗芸能調査報告書の調査。調査日、8月26日・  
9月1, 8, 13, 16, 23, 27日・10月14, 28日・  
2月16, 17・3月2, 10, 17, 24, 31日。

田鍬：日吉大社山王祭出仕雅楽団体（至誠雅楽会）聞  
き取り調査。調査日、3月27日（真榊神事）、30  
日（おいで神事）。

出口：奈良、兵庫、和歌山、三重、滋賀の民俗芸能調  
査報告書の調査。1月27日・3月3, 7, 11, 12,  
15, 17, 19, 23, 24, 25, 26, 31日。

前島：京都、栃木、群馬、埼玉の民俗芸能調査報告書  
の調査。3月18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25,  
26, 28日。

増田：静岡、愛知、長崎、鹿児島、沖縄の民俗芸能調  
査報告書の調査。3月14, 15, 16, 17, 18, 22,  
23, 28, 29, 30日。

■ 2020年度研究会開催日  
12月10日、3月31日。

#### ■活動

コロナウィルス感染拡大の影響で、ゲスト招待やイ  
ベント的な開催も行えず、上記の二日間の開催に留  
まった（すべてオンライン）。2022年度に論集を編  
集・刊行予定。

## 近現代の伝統音楽および民謡の変容 と実践

研究代表者：齋藤桂

共同研究

共同研究員：安納真理子（東京工業大学・准教授）、梶  
丸岳（京都大学・助教）、片岡リサ（大阪音楽大学・特  
任准教授／大阪大学・博士後期課程）、藪田郁（日本  
伝統音楽研究センター非常勤講師）、竹内直（京都市  
立芸術大学ほか非常勤講師）、土田耕督（大阪大学・  
コースアシスタント）、出口実紀（日本伝統音楽研究  
センター非常勤講師）、輪島裕介（大阪大学・准教授）、  
大久保真利子（九州大学総合研究博物館・専門研究員）

#### ■趣旨

明治期以降から現代までの伝統音楽および民謡に  
ついて、その変容と実践についての詳細を明らかにす  
る。その中でも特に、新民謡や邦楽器を用いたポピュ  
ラー音楽演奏、現代邦楽、現代の民謡（民謡大会な  
ど）、複数ジャンルのコラボレーションや言語・文化  
圏を跨いだ活動等、近現代に特有の音楽実践に光を当  
てる。またそれらの音楽実践を文化史の中に位置づけ  
ることで、近現代の伝統音楽・民謡の文化的意義の解  
明を行う。